

研究テーマ

- ①「自分の考えを進んで説明しようとする表現力の育成」
- ②「学習の流れがわかる板書とノート指導の取り組み」

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員 日下 真子	委員	教務主任 : 久米田 美和子	校長 立岩 一彰
		1学年担任 : 尾川 弘美	
		特別支援コーディネーター : 久米田 芳江	
		4学年担任 : 折野 美穂	
		5学年担任 : 橋本 幸典	

阿南市立岩脇小学校
「学力向上実行プラン」

(1)基礎的・基本的な知識・技能の習得

児童生徒の状況	具体的目標(目指す子供の姿)	成果指標	中間期の見直し	取組状況	達成状況
よさ 漢字の読み書きや数計算の力は、おむね身につけている。	基礎的・基本的な知識・技能を確実に身につけ、それらを日常生活の中で進んで活用できる。	読み・書き・計算の基本的な確認テストで正答率90%以上を目指す。	下学年は、基礎・基本を徹底するために教科書の音読や視写に力を入れる。忘れ物や宿題等、家庭との連携を図り生活習慣の見直しを図る。	朝活でのドリル学習等は継続できたが、ステップアップタイムの全校一斉の取り組みは不十分なところがあった。	正答率90%以上の者が殆どであるが、不十分な児童もいる。学年・学級によって取り組み方に偏りがあった。
課題 課題の条件に合わせて情報を選択したり、書いたりすることに抵抗感がある児童が見られ、語彙も少ない。また、言語事項の理解では、個人差が大きい。図形や量と測定の領域に苦手意識をもつ児童が多い。	①朝の活動時に漢字や計算のドリル学習や確認テストを行う。また、授業で不十分だった問題などの反復学習を行う。 ②課題や条件に合わせて適切に表現する力を身につける。 ③体験やICTの活用により実感が得られるような授業の工夫をする。	①朝の活動を計画的に活用し、週一回は確認テストを行う。 ②毎週水曜日の朝の活動を全校一斉の「ステップアップタイム」として「ミニ作文」「条件作文」「新聞感想文」「きくきくドリル」等に取り組む。		評価 B	次年度における改善事項 ○数名に基礎学力をつけるため、個人差に応じた授業の工夫やドリル学習の継続をする。 ○定期的に行う確認テストを各クラスで徹底する。 ○音読をしっかりと行わせ、長文の中からキーワードを抜き出す・書き込む・線を引く等の手法を身につけさせる。 ○体験的活動やICTの活用を重視した指導を心がける。 ○ステップアップタイムの継続を図るために準備担当者を数名置くようにする。

(2)知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況	具体的目標(目指す子供の姿)	成果指標	中間期の見直し	取組状況	達成状況
よさ 学年発表や集会では、詩の朗読や歌等を堂々と表現し、全校の児童の前でも感想を言う児童が増えてきている。また、方法や手順が分かる学習には、真面目に取り組んでいる。	課題や目的に応じて筋道を立てて考え、理由や根拠を明らかにして、進んで自分の考えを説明することができる。「課題」に対する「ふり返り・まとめ」を自分の言葉で表現することができる。	「自分の考えを他の人に説明したり文章に書いたりすることが楽しい(得意)」の割合を80%以上にする。	ノート指導のルールを共通理解し、各学年での目標を決め、「めあて」「思考」「まとめ」が書けるように努める。上学年はNIEや「鳴潮」書き写しの活動を通じて、更に表現力を磨く。学習したことを生かせるような体験を増やす。	ベアトークやグループ討論・ホワイトボードミーティング等を通して、自分の意見を言うことができるようになってきた児童が増えた。「鳴潮」書き写しを続けて書く力がついてきている。	下学年では発表が楽しいと感じる児童が多いが、全体的には苦手意識をもつ児童も少なくない。また、話し合いの仕方・進め方がまだ十分ではなく、学びの高まりも少ない。全体の場での発表の声が小さい。
課題 課題や目的に応じて聞き取ることや、友達の意見を聞いて自分の考えを広げたりまとめたり比べたりする力に課題がある。また、自分の考えをもっているも進んで表現しようとする積極性に欠ける。	①教材や発問を工夫し、筋道を立てて考えたり書いたりできるように指導する。(発表の仕方を具体的に示す) ②研修により授業力向上に努め有効な手立てを共有する。 ③授業力向上チェックシートで定期的に自己の授業を振り返り、授業力向上に役立てる。 ④板書の構造化(「めあて」「思考」「まとめ」が分かる)を図り、板書と一体化したノート指導に努める。	①ベアトークやグループ討論、ディベート、ホワイトボードミーティング、ICT等を1日に一回は取り入れる。 ②全職員が年に1回研究授業を行い授業力向上(ユニバーサルデザイン化等)を図る。 ③年三回は、チェックシートで自分の授業を振り返り、授業力(資質)向上を目指す。 ④めあて・思考・まとめをノートに書かせる。		評価 B	次年度における改善事項 ○話し方・話し合いの手引きを示し、実際の学校生活と結びつけた話し合い(朝の会・帰りの会・委員会・クラブ・地域子供会など)の中で自分の意見を正しい言葉使いで話せるようにする。 ○学年発表の他にも委員会・クラブ発表など、児童発表の場をできるだけ多く設ける。 ○グループ討論の持ち方や板書・ノート指導・ICTの活用等に着目した研究授業を行い、授業力向上を図る。 ○ONIEや「鳴潮」書き写しの活動・研究を通して、児童の学力向上に生かす。

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況	具体的目標(目指す子供の姿)	成果指標	中間期の見直し	取組状況	達成状況
よさ 家庭学習の習慣や基本的な生活習慣は、ほぼ定着している。与えられた課題については、最後まで根気強く取り組む。	家庭学習では進んで課題に取り組み、苦手な課題にも根気強く取り組むことができる。家庭でも進んで読書をする。「岩小っ子授業のルール10のやくそく」を守ることができる。	家庭学習の実施率を各クラスで100%を目指す。一人ひとりの読書時間を増やす。	「10のやくそく」の反省カードを作成し、1週間毎日反省を記入する。	自主学習ノートの提出を継続し、家庭学習として定着してきた。自主学習の内容も少しずつよくなってきている。読書活動では、優良児童を表彰し意欲づけた。	家庭学習の習慣はほぼ100%と定着しているが、個人差への対応に力を入れる必要がある。また、家庭の協力が得にくい児童もいる。
課題 自分から進んで課題を見つけて取り組むことが苦手である。また、家庭での読書の時間が少ない。	①3年生以上では、自主学習ノートを持たせ、進んで自主学習に取り組むよう手立てを工夫する。(シール・色別ノート・コンクール・リレー式など) ②読書時間の確保(週一回20分以上)を徹底する。 ③各学年読み聞かせを積極的に取り入れる。高学年が低学年に読み聞かせを行う機会をつくる。	①自主学習ノートの達成冊数や内容の素晴らしさを積極的に紹介し、一人年間1冊以上を目指す。 ②図書委員会の読書優良児童(低100冊、中50冊、高20冊以上)の表彰の割合を各学年50%以上にする。 ③下学年では、週一回読み聞かせを行う。	教科書に出てくる文学作品の読解の質を高めることにより、進んで読書に取り組む子どもを増やす。	評価 A	次年度における改善事項 ○週末に本をもって返らせたり読書の宿題を出したりして、家庭への啓発と協力を呼びかける。 ○「10のやくそく」の項目を見直し、全職員がこのルールを児童に徹底させるという共通認識をもつ。 ○「10のやくそく反省カード」を年に数回書かせルールの徹底を図るようにする。 ○自主学習ノートの取り組みを継続し、様々な手立ての工夫をしながら家庭学習の質の向上を目指す。 ○読書優良児童の表彰については継続し、個人差に応じた手立てを考え読書環境を整えていく。

平成29年度 学力向上ロードマップ

